

## 2023年度 研究センター事業報告書

研究センター名	クリエイティブ・メディア研究センター
---------	--------------------

**I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること**

本欄には、研究センターの実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなうだけでわかりやすく記述してください。

クリエイティブ・メディア研究センター（以下、CMRC）では、センター発足以来、理工学と人文学を融合した領域横断的な研究体制の下、メディア実践に関わる諸問題に取り組んできた。コロナ禍を経て大学教育をはじめとする多様な分野でDXが急速に進められるように、CMRCが研究の主たる対象とするクリエイティブ・メディア、すなわちユーザーが身体や感覚を能動的に関与させるメディア実践はますます重要性を増し、CMRCの推進する研究の社会的意義もまた高まっているといえる。こうした背景の下、本年度は主に、1. リサーチ、アーカイブ、クリエーションの三部門に属する構成員による個別研究を進めると共に、2. 共同研究の一環として土曜講座の開催と科研費申請に取り組んだ。

I. 研究成果の概要（公開項目）：CMRCでは、センターの発足以来、理工学と人文学を融合した領域横断的な研究体制のもと、メディア実践に関わる諸問題に取り組んできた。2023年度は特に、以下の3つの主要活動を中心に研究を推進した。

## 1. 各部門における個別研究の推進

【リサーチ部門】リサーチ部門では、デジタル技術に関わる諸実践について、プラットフォームビジネスやクリエイティブ産業の状況、ICT施策や美術作品等を対象に理論調査を進め、国内外の学会や研究会を中心にその成果を発表した。具体的には、松井才奈、山根瑞樹、室井克仁、酒井ちひろらと共同でMR BLS Trainerの開発と発表を行い、さらに望月茂徳は3Dアバタを活用した遠隔授業の開発を進めた。

【アーカイブ部門】アーカイブ部門では、写真、映画、ゲーム、アニメーション等の個別メディアを対象に、比較社会論的な視点からの研究を進めた。例えば、北村順生は「地域の記憶と記録のアーカイブ」プロジェクトを通じて地域に根ざしたメディアアートの研究と成果発表を行った。

【クリエーション部門】クリエーション部門では、ミクストリアリティ技術を活用した教育デバイスや地域に根ざしたメディアアートなどの開発と成果発表を進めた。大島登志一教授と望月茂徳教授は、投影型ARを活用した教材開発に取り組み、その成果を社会へ還元する活動を行った。

## 2. 部門を横断する共同研究の推進

CMRCでは、研究成果を社会へ還元することに加え、成果発表を開かれた場で行い、研究者のみならず多様な参加者が自由に意見交換することを重要視している。2023年1月10日に行われた「Media Boundaries」企画では、CMRC構成員と客員協力研究者がメディアの境界線について議論を行い、一般公開された本講演で多様な参加者との活発な質疑応答が行われた。2023年度には以下の訪問研究員を迎え、研究交流を行った。Marco Pellitteri (Dept Media & Com, Xi'an Jiaotong-Liverpool University)、Zoltan Kacsuk (Stuttgart Media University)、Steffi Richter (Leipzig University)、Remy Delanaux (Claude Bernard University Lyon 1) の4名である。これらの訪問研究員との交流を通じて、国際的な視野を持つ研究活動をさらに深化させた。また、2023年度には院生・若手研究者の交流を促進するためのイベントも積極的に実施した。例えば、関西大学の村田麻里子教授を迎え、「Museums as Media: A Methodology」というテーマで講演を行い、メディアとしての博物館の方法論について深い議論を行った。さらに、研究科横断の院生研究会であるThe graduate Colloquium in Digital Cultureを毎月開催しており、例えば先端研院生のNoam Stein氏による「ミームテンプレートとしての文化物語：オンラインにおけるミームナラティブの識別」という発表を行い、オンラインミームにおける文化的ナラティブの識別について議論した。毎回15~30名を超える院生が集まり、活発な議論を行っている。（[詳細] (<https://cmrcritsumeikan.wixsite.com/creative-media-resea/post/session-1-gcdc-meme-templates-as-cultural-narratives-identifyng-memetic-online-narratives>））。

このように、CMRCは国内外の研究者との連携を深めつつ、分野横断的な共同研究を推進し、その成果を広く社会に発信している。具体的な研究成果は「III. 研究業績」を参照されたい。

## II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2024年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位	
センター長	大山 真司	国際関係学部	教授	
運営委員	大島 登志一	映像学部	教授	
	北野 圭介	映像学部	教授	
	北村 順生	映像学部	教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	望月 茂徳	映像学部	准教授	
	竹村 朋子	映像学部	准教授	
	宋 基燦	映像学部	准教授	
	福間 良明	産業社会学部	教授	
	飯田 豊	産業社会学部	教授	
	松島 綾	産業社会学部	教授	
	Thouny, Christophe	グローバル教養学部	准教授	
	ROTH, Martin	先端総合学術研究科	准教授	
学内の若手研究者	専門研究員 研究員 初任研究員	Cabana, Isabel	衣笠研究総合研究機構	研究員
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	大学院生			
	学振特別研究員 (PD・RPD)			
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・ 博士前期課程院生等)				
客員協力研究員	伊藤 守	早稲田大学教育・総合科学学術院	教授	
	Steinberg, Marc	コンコルディア大学	教授	
	田畑 暁生	神戸大学大学院人間発達環境学 研究科	教授	
	前川 修	近畿大学文芸学部	教授	
	増田 展大	九州大学大学院芸術工学研究院	講師	
	松谷 容作	追手門学院大学社会学部	教授	
	水嶋 一憲	大阪産業大学経済学部	教授	

	毛利 嘉孝	東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科	教授
	吉田 寛	東京大学大学院人文社会系研究科	准教授
	Richter, Steffi	ライブツィヒ大学歴史・芸術・オリエンタ学部東アジア研究所	主任教授
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	依田 富子	ハーバード大学東アジア言語・文明学部	教授
	Zahlten, Alexander	ハーバード大学東アジア言語・文明学部	教授
センター構成員 計 25名 (うち学内の若手研究者 計 1名)			

### Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2024年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	大島登志一	3D映像制作のための基礎からわかるMR(複合現実):リアルとバーチャルの融合技術(エンジニア入門シリーズ123)	単著	2024年1月	科学情報出版	—	pp. 1-242
2	北野圭介	情報哲学入門	単著	2024年1月	講談社選書メチエ	—	—
3	福間良明	岩波講座社会学第1巻 理論・方法	分担執筆	2023年10月	岩波書店	北田暁大・筒井淳也編	—
4	福間良明	現代社会を拓く教養知の探究	分担執筆	2024年3月	晃洋書房	教養教育研究会編	pp. 83-103
5	飯田豊	万国博覧会と「日本」:アートとメディアの視点から	共著	2024年3月	勁草書房	暮沢剛巳・江藤光紀・加島卓・鯖江秀樹・ウィリアム・O・ガードナー	pp. 1-40
6	飯田豊	[新版]現代文化への社会学:90年代と「いま」を比較する	共編著	2023年12月	北樹出版	高野光平・加島卓共編、林田新・田中里尚・池上賢・光岡寿郎・富永京子著	pp. 12-23、 pp. 34-46、 pp. 155-168
7	Thouny, Christophe	<i>The Urban Planetary and Tokyo Modernity: Dwelling in Passing</i>	単著	2023年12月	Lexington Books	—	—
8	松谷容作	メディア論の冒険者たち	共著	2023年9月	東京大学出版会	伊藤守編	pp. 241-255
9	水嶋一憲	メディア論の冒険者たち	共著	2023年9月	東京大学出版会	伊藤守編	pp. 324-336
10	水嶋一憲	プラットフォーム資本主義を解読する:スマートフォンからみえてくる現代社会	共編著	2023年6月	ナカニシヤ出版	ケイン樹里安、妹尾麻美、山本泰三、金峻永、宇田川敦史、久保友香、佐幸信介、山川俊和、中野理、水越伸、勝野正博	「まえがき」、 pp. i-v, pp. 139-152, pp. 167-172

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	大山真司	The Last Paradise for Creative Workers?: The	単著	2023年12月	Routledge, International Journal of Cultural Policy	—	—	有

		Case of Shueisha and Weekly Shōnen Jump						
2	大山真司	Navigating the Landscape of Japanese Romance Dramas: Frameworks, Trends, and Recommendations	共著	2023年7月	Commissioned report for Netflix	Dr Tse Yu-kei	Pp1-24	—
3	大島登志一	MR BLS Trainer: A physical mixed reality CPR+AED rescue simulator	共著	2023年12月	SA '23: ACM SIGGRAPH Asia 2023 XR	松井才奈、山根瑞樹、室井克仁、酒井ちひろ	pp. 1-2	有
4	福間良明	対談「三人閑談 司馬遼太郎生誕100年」	共著	2023年4月	慶応義塾三田評論 (1276)	福間良明・大石裕・片山杜秀	74-87	—
5	福間良明	「『反日』『親日』のアンビバレンス——趙相宇『忘却された日韓関係(併合)と(分断)の記念日報道』」	単著	2023年4月	京都大学大学院教育学研究科メディア文化論研究室『京都メディア史年報』(9)	福間良明	183-190	—
6	福間良明	「作品で描こうとしたものと、作品が受け入れられた背景」(特別企画司馬遼太郎の「これまで」と「これから」)	単著	2023年6月	PHP研究所『歴史街道』2023年7月号(423)	福間良明	104-111	—
7	福間良明	「なぜ、司馬遼太郎はサラリーマンに人気だったのか? —— “歴史ブーム” と大衆教養主義」(特集:「教養」の現在地)	単著	2023年7月	集英社『imidas』(webマガジン)	福間良明	—	—
8	飯田豊	テレビ共聴、自主放送、CATV: 難視聴対策からニューメディアへ	単著	2024年3月	NHK出版, 放送メディア研究, 17	NHK 放送文化研究所 [編]	pp. 165-183	無
9	飯田豊	坂本龍一のメディア論的思考: 一九八〇年代、なぜ未来派に惹かれたのか	単著	2023年10月	青土社, ユリイカ, 2023年12月臨時増刊号		pp. 109-119	無
10	ROTH, Martin	Was wird denn hier gespielt? Genrebezogene Unterschiede der digitalen Spielelandschaft in Deutschland und Japan	単著	2023年6月	Verlag Werner H?lsbuschSpielzeichen IV: Genres	<u>Roth, Martin</u>	207-230	—
11	松谷容作	月との遭遇——ポスト地球の美学による JAXA「月面農場」に対する批判的考察——	単著	2024年3月	追手門学院大学社会学部, 追手門学院大学社会学部紀要, 18号	松谷容作	pp. 47-62	無
12	水嶋一憲	機械状資本論ノート: メディア・技術・資本主義第2回〈ユーザーは共民の夢を見るか: コミュニケーション/プラットフォーム資本主義と(共)の実験〉	単著	2024年3月	5 Designing Media Ecolog	—	—	—

### 3. 研究発表等

No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	大山真司	Cultural Labour in Japanese Media Industries	2023年6月	Sustainable Futures of Culture Project: International Workshop on Cultural Labour	—

2	大山真司	Affective Labor in/for Japan: Creative Industries and Public Diplomacy	2023年9月	Cultural Typhoon 2023: Annual Conference of Association of Cultural Studies in Japan	—
3	大山真司	Commentary on the panel: J-pop Meets K-Pop, The People to People Dimension	2023年11月	Perspectives for cooperation of Japan and South Korea to stabilize the volatile security situation, Bilateral and multilateral aspects	—
4	大島 登志一	Hapto Map	2023年4月	Laval Virtual 2023 ReVolution #Research Demo	渡邊朱莉
5	北村順生	地域の記憶と記録のアーカイブ	2023年11月	社会情報学会九州・沖縄支部研究会、福岡女学院大学	—
6	望月茂徳	Immersive Tales: 映像投影を用いた絵本とその読書体験の拡張	2023年8月	エンタテインメントコンピューティング 2023	北山玲奈, 大島登志一
7	望月茂徳	Augmentation of Medical Preparation for Children by Using Projective and Tangible Interface	2023年12月	SIGGRAPH Asia 2023	Miki Monzen, Toshikazu Ohshima
8	望月茂徳	多様な特性を考慮したインクルーシブな映像インスタレーションの制作	2024年3月	INTERACTION 2024 第28回 一般社団法人情報処理学会シンポジウム	中濱佑太, 門前美樹
9	竹村朋子	A Cohort Study of the Association Between Health Literacy and COVID-19 Booster Vaccine Hesitancy and Twitter (X) Usage	2023年9月	京都大学研究交流サロン、京都大学	Tomoko Takemura, Yoshitaka Nishikawa, Jung-ho Shin, Takeo Nakayama, Yuichi Imanaka
10	福間良明	「戦後日本のメディア文化と『戦争の語り』の変容」	単独	2023年8月	国際シンポジウム「第72回 SGRA フォーラム / 第8回日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性」
11	福間良明	「『明治の明るさ』と戦後後期の大衆ナショナリズム: 「司馬遼太郎の時代」と「昭和の暗さ」の後景化」	単独	2023年9月	国際シンポジウム「東アジアにおける文化権力の対立と拮抗: 和解のための模索」
12	福間良明	「『戦跡』の構築と『継承という断絶』」	共同	2024年2月	翰林大学日本学研究所専門家招聘懇談会
13	福間良明	「戦後日本のメディア文化と『戦争の語り』の変容」	単独	2023年8月	国際シンポジウム「第72回 SGRA フォーラム / 第8回日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性」
14	飯田豊	【招待】芸能とメディアの関係史: 「演者/観客」から「送り手/受け手」へ	2024年2月	日本史研究会「歴史から現在(いま)を考える集い」, 平安女学院大学, 京都府京都市	—
15	飯田豊	メディア研究をめぐる教科書文化の課題と展望	2023年4月	第2回メディア・スタディーズ・フォーラム, 関西大学梅田キャンパス, 大阪府大阪市	—
16	松島綾	「メディア分析」セッション司会	2023年6月4日	日本コミュニケーション学会 第52回年次大会、立教大学	—
17	Thouny, Christophe	【招待】 Presentism in Contemporary Video Production	2024年1月	SILS Art Project - Waseda University	—
18	Thouny, Christophe	【招待】 For a Planetary Education: the Global University's Undercommons & Japanese Alternative Education Practices	2023年12月	ATN Workshop - The University: Colonial/Modern, Global/Neoliberal, Digital/Transversal Ateneo de Manila University	—
19	Thouny, Christophe	【招待】 Hunting for the everyday: Kon Wajirō and Modern Tokyo	2023年10月	日文研セミナー	—

20	Thouny, Christophe	Spiritual Animism and Urban Crisis in Japanese Animation	2023年6月	ASCJ, Sophia University	—
21	Thouny, Christophe	【招待】Living As If We Were Air-Dolls	2023年6月	Symposium Around Kore-eda, Keio University	—
22	Thouny, Christophe	Japan Leaks: The Littoral City in Ueda Sayuri's <i>The Ocean Chronicles</i> Series	2023年6月	AAS in Asia, Kyungpook National University	—
23	Thouny, Christophe	<i>The Cage of Zeus: Beyond Planetary Populism</i>	2023年6月	ICCTP Conference 2023 - Theorizing Authoritarianism, Kyughee University	—
24	Thouny, Christophe	Deformation as Destiny: <i>Made in Abyss'</i> Planetary Ecologies	2023年5月	Mechademia Conference in Kyoto - Aftermaths, Seika University / Kyoto International Manga Museum	—
25	ROTH, Martin	Playing with Animal Crossing: A data-based analysis of regional and transregional practices in the Japanese, Korean and Chinese YouTube space	2023年6月	Digra 2023	Roth, Martin
26	ROTH, Martin	Domestic and Transnational Play Cultures on YouTube. The case of Animal Crossing: New Horizon	2023年8月	Replaying Japan 2023	Roth, Martin
27	ROTH, Martin	Towards 'Linked Open SVOD Data': a data-driven study of the digital anime market	2023年9月	JADH 2023	Delanaux, Remy and Martin Roth
28	松谷容作	Art as Decomposition: Soichiro Mihara's Making Soil	2023年9月	Taboo -Transgression - Transcendence in Art & Science	Yosaku Matsutani

#### 4. 主催したシンポジウム・研究会等

No.	氏名	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	Thouny, Christophe	Planetary Love Workshop - Terayama Shūji: Home, Landscape, Media	webinar	2023年11月	15名	—
2	Thouny, Christophe	Planetary Love Workshop - From Fermentation Culture	立命館大学	2024年1月	15名	—
3	松谷容作	第3回追手門学院大学芸術文化事業上映会&トークセッション	茨木市福祉文化会館	2024年1月	100名	追手門学院大学社会学部、茨木市、茨木市文化振興財団

#### 5. その他研究活動（報道発表や講演会等）

No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	望月茂徳	HAGOROMO 2023（作品発表）	BankArtStaion 横浜, UrbanGuild 京都	2023年9月～2023年9月
2	福間良明	「司馬遼太郎はいかに国民作家になったのか?～戦争の記憶・メディア・大衆教養主義～」(福間良明)	司馬遼太郎はいかに国民作家になったのか——生誕100年で考える戦後日本の歴史観	2023年8月

3	飯田豊	企画・ファシリテータ 2023年度 日本メディア学会・社会情報学会 修士論文報告会	オンライン開催	2024年3月
4	飯田豊	エッセイ 「中高生モニターとともに、放送の未来を考える」	放送倫理・番組向上機構 [BPO] 設立20周年記念誌『BPOの20年 そして 放送のこれから』	2024年3月
5	飯田豊	トークイベント 「Algorithmic Couture Alliance —— デジタルとファッションをめぐる対話」	SUPER DOMMUNE	2024年3月
6	飯田豊	書評 ユッシン・パリッカ『メディア考古学とは何か? : デジタル時代のメディア文化研究』梅田拓也・大久保達・近藤和都・光岡寿郎訳 (東京大学出版会、2023年)	社会情報学 第12巻3号	2024年3月
7	飯田豊	座談会 「放送メディアと放送技術の未来像」	NHK出版 放送メディア研究 17	2024年3月
8	飯田豊	新聞談話 「コスプレの聖地」へ好条件の相模原 商店街や公園など多様な風景	朝日新聞 2024年3月10日朝刊 (横浜)	2024年3月
9	飯田豊	書評会 阿部卓也『杉浦康平と写植の時代: 光学技術と日本語のデザイン』(慶應義塾大学出版会、2023年)	愛知淑徳大学 長久手キャンパス	2024年1月
10	飯田豊	講演会 「テレビ離れ」で社会はどのように変わるか	兵庫県西宮市 生涯学習大学「宮水学園」 フレッシュ西宮	2024年1月
11	飯田豊	解説記事 KDDIの関連事業をJ:COMに集約: ケーブルテレビ界 これまでの歩みと展望	民放online	2023年9月
12	飯田豊	雑誌談話 心霊番組に起きた異変! 『ほんとはあった怖い話』に霊媒師が出てこない…宜保愛子さん、稲川淳二、織田無道さんの“過去映像も使えない”ワケ	週刊女性 2023年9月12日号	2023年8月
13	飯田豊	エッセイ テレビドラマのなかの嗜好品文化	公益財団法人たばこ総合研究センター TASC MONTHLY	2023年8月
14	飯田豊	新聞談話 歌手・俳優の不祥事 作品「お蔵入り」必要? 「過剰反応」撤回求める声も	産経新聞 2023年7月20日号	2023年7月
15	飯田豊	座談会 流されるままに選択していない? その選択、ダイジョーブ?	立命館大学教養教育センターみらいゼミ関連企画	2023年6月
16	飯田豊	司会 ワークショップ「コンピューティングの歴史社会学の可能性: 社会を支えるインフラ・思想としての「計算」」	日本メディア学会 春季大会	2023年6月
17	飯田豊	コメンテータ Alexander Zahlten “Continuity, Rupture, and Ecological Collapse: Shichōsha and the Question of Time”	ワークショップ「(視聴者)の系譜: ある文化的主体の科学技術的形成 (Techniques of the Shichōsha: On the Technoscientific Formation of Cultural Subjects)」 京都大学	2023年6月
18	水嶋一憲	アントニオ・ネグリさんを悼む: 世界の変革へ「好奇心と情熱」	京都新聞	2023年12月28日
19	水嶋一憲	書評 ニック・スルネック著『プラットフォーム資本主義』(人文書院)	図書新聞	2023年4月1日

## 6. 受賞学術賞

No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
—	—	—	—	—	—

## 7. 科学研究費助成事業 (科研費)

No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	大島登志一	フィジカルな体験を重視した複合現実型インタラクティブ学習教材の研究	基盤研究(C)	2021年4月	2024年3月	代表
2	北村順生	映像アーカイブの教育活用によるサーキュレーション型文化	基盤研究(C)	2018年4月	2024年3月	代表
3	北村順生	身振り言語に見る戦後日本の知識人: 加藤周一、丸山眞男、鶴見俊輔を例にして	挑戦的研究 (萌芽)	2021年4月	2025年3月	分担
4	望月茂徳	インクルーシブな社会形成を促すインタラクティブメディアと体験デザインの開発	基盤研究(C)	2021年4月	2025年3月	代表

